

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371300738		
法人名	有限会社 ハピネス		
事業所名	グループホーム ハピネス守山 1階		
所在地	名古屋市守山区西城2丁目9-29		
自己評価作成日	平成29年9月26日	評価結果市町村受理日	平成30年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyoSyCd=2371300738-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「ハピネス守山」は落ち着いた雰囲気のある住宅地にあり、しゃれたモダンな総タイルの建物です。
 入居者と一緒に植えた季節の花が玄関前のアプローチに色とりどりに咲いています。
 南向きの陽当たりの良い広々としたリビングは、特に入居者のお気に入りです。
 食事は入居者の方々と一緒に準備する旬の素材を取り入れた全て手作りです。
 また、訪問看護や訪問リハビリ、内科医、眼科医、歯科医の往診もあり医療面においても充実しております。
 「明るく、楽しく」をモットーに入居者とスタッフの笑顔が自慢です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム職員の入れ替わりが少ないことがホームの特徴でもあり、一人ひとりの利用者に対して同じ職員による継続的な支援が行われていることで、利用者の細かな意向等にも柔軟に対応している。利用者の細かな意向等に合わせた個別の対応が行われていることや、食事面でも利用者の身体状態や希望等に合わせたメニューや食事形態の配慮が行われている。医療面での支援についても、柔軟な支援が行われており、ホーム職員による受診支援も行われており、利用者の健康状態に合わせた支援が行われている。また、当ホームは3ユニットのホームであるが、今年度より職員体制を充実させながら夜勤職員3名の体制に移行している。夜間における救急対応等の際には、柔軟に対応することができる体制となったことで、利用者、家族に安心して過ごることができる環境が整えられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をスタッフの目に付くリビングに掲示し、リーダー会議などで常に確認しスタッフが理念に基づいて介護できるように取り組んでいる。	理念をホーム開設時につくっており、ホーム内に掲示が行われている。利用者の尊厳に配慮した支援を行うことを目的とした内容となっており、利用者への呼びかけ方や対応等、職員への働きかけが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し近隣の方とは挨拶したり、お庭の植木や花を見せて頂きお花を頂く事もあります。又、お宮さんへの散歩では顔なじみの方も増えております。	ホームは地域の自治会に入り、日常的な交流の他にも、地域の行事の際にはホームからも参加する等の交流が行われている。また、ホームにボランティアの方の訪問が得られており、利用者との交流が行われている。	地域の方との日常的な交流に努めているが、限られた範囲となっている現状もある。可能な範囲で、ホームからの継続的な働きかけに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に入会し運営推進会議に町内会長にも参加願い、グループホーム内の認知症の方のお話を聞いて頂き徐々に理解や支援を得られるようになっていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、地域包括、医療従事者などにも参加していただき活動報告や話し合いを行なうようにしている。	会議の際には、地域の方の他にも医療従事者の方等の参加が得られていることで、出席者からの意見等がホームの運営につながるような取り組みが行われている。また、出席している町内会長を通じて、地域に関する情報交換等にもつながっている。	会議に家族の参加が得られていない現状があるため、ホームからの家族への継続した働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所の保護係の方とは連絡を密に取り協力関係を築いております。	複数の生活保護の方が生活しており、関係部署との定期的及び随時の情報交換等が行われている。また、地域包括支援センターも参加している介護事業所の交流会にも参加しており、交流に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のマニュアルを作成し、フロアリーダーを中心に全スタッフが理解し拘束をしないケアを実践し介護の現場に活かしている。	ユニットの入り口は施錠されているが、職員間で利用者の様子を見ながら気分転換をしてもらう等の対応が行われている。また、管理者、リーダーによる利用者に関わった言葉遣いの注意喚起等、言葉による拘束防止にも取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間にて情報を交換し合い常に支援の在り方について話し合っている。利用者の心、身体の変化に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護センターを利用されている方もいらっしゃるのスタッフの理解や関心は高い。必要な方には支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時や契約時には特に十分に説明しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が面会時にはスタッフが近況報告し家族との話し合いの場を作り要望等をお聞きしている。	家族からの要望等はリーダーが把握し、法人代表者でもある管理者に報告する体制がとられており、ホーム便りにも明記する取り組みが行われている。また、毎月の利用者毎の便りの作成が行われている。	ホームからの働きかけが行われているが、行事等に家族の参加が難しい現状がある。ホームの取り組みを知ってもらうためにも、可能な範囲での継続した呼びかけに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回はカンファレンスを聞く事とし、又、リーダー会議も月1回開催し話し合いの場を設け改善に向けている。	毎月のユニット会議が行われており、現場からの意見等は、管理者とリーダーとの会議で検討され、運営への反映につなげている。また、管理者は法人代表者でもあるため、職員からの意見に柔軟に対応するように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	短時間勤務希望者を多く採用し、申し送りにて現場の状況を把握し、各自が入居者様との関係性を重視して努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には順次受講し人材育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会があれば出席するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	穏やかに声掛けし不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、面接時や入所当所は特に注意を払い信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様の要望や入居者様の様子を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごし家族のつもりで言葉がけにも思いやりを忘れず良い関係を築く事に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にはスタッフと家族も仲良しである事を知って頂ける様、信頼関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会に来て頂けるよう近況報告したり、又お茶をお出ししたりして対応に努めております。手紙を書いたり電話を掛けたりなじみの人との関係が途切れない様な支援も行っています。	入居前からの知人や友人がホームに訪問したり、行きつけの美容院等に出かけたりしており、関係継続につながる取り組みが行われている。また、家族との買い物や食事等の外出の他にも、墓参りや法事等を通じて、一緒に過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように性格をよく把握し、スタッフが声掛けし話題作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話には快く対応し、外出先でご家族様とお会いした時も情報交換している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人から良く話を聞き、希望する事など把握するように努めている。利用者や家族はなかなか意見を言われない方もいらっしゃるが会話の中からくみ取る努力をしている。	毎月の利用者毎の便りを職員間で交代して作成することで、利用者の把握につなげており、意向等が支援に反映できるように取り組んでいる。また、ユニット毎に毎月のカンファレンスの取り組みが行われており、意向等に関する検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人とのお話や、御家族からの聞き取りをまめにするように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や様子からご本人は何に感動し元気になるか、さぐりながら見守っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員で(介護記録)(申し送りノート)を活用し介護の内容をチェックし合う事している。状態変化があれば随時評価をし直し、カンファレンスを行い作成しなおしをしている。	介護計画は6か月での見直しが行われており、状態変化等に合わせた随時の見直しも行われている。モニタリングについては、毎月のカンファレンスの中で実施しており、利用者に関する変化の把握と介護計画の見直しにつなげるように取り組んでいる。	モニタリングを実施しているが、その記録が充分ではない現状があるため、様子を工夫する等、定期的なモニタリングの記録につながる取り組みにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ全員で情報を共有し気付いた事があれば申し送りノートや介護日誌を通じて介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容の利用や誕生月の外食や行事に応じた食事やおやつを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	気候の良い時に近くの白山神社へ詣りその折ご近所を散歩している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期的な往診(内科、眼科、歯科)や訪問看護を行っており本人や家族の不安や相談に迅速に対応できるように努めております。	3ユニットである利点を活かしながら、協力医が月に複数回訪問しており、利用者の健康状態等に合わせた医療面での支援が行われてい。受診については、家族による対応を基本としつつ、状況等に合わせたホームでの対応も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医より、訪問看護を週2回実施し日々の健康管理に努めている。特変などには24時間対応して相談し必要があれば医師がかけつけてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医院の相談員と連携を取り情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時には必ず重度化した場合や終末期の対応について、ご家族からの希望をお聞きし常に協力医療機関との連携を持ち、取り組んでいる。家族に「事業所でできること」を説明、理解を得るよう取り組んでいる。ここで対応できないような場合は他施設及び病院等へ転居の対応も支援している。	ホームには重度の方も生活しており、利用者の看取りを見据えた支援にも前向きな取り組みが行われている。協力医による支援も得られており、家族との話し合いを重ねながら、利用者に合わせて看取り支援や次の生活場所への移行支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	目に付く所へ心肺蘇生法や急変時の対応のマニュアルを掲示し適切な対応が出来るようにしてある。消防署の救命講習を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い日頃より意識している対応マニュアルの確認、地域の自治会長とは、入居者の様子をお話し協力体制を築きスムーズな避難が行えるようにしている。避難時の食料品等を追加し準備しました。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練の実施や、通報装置の確認等が行われている。水や食料等の備蓄品がホーム内に確保されている。また、今年度より夜勤職員が3名体制に移行しており、夜間における安全確保の強化が図られている。	重度の方は生活している現状があり、利用者の避難誘導には困難な面もある。夜間の職員体制が強化されているが、近隣にある法人関連ホームとの連携をはじめ、近隣の方との協力関係の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し自尊心を傷つけることがないように特に言葉かけには、プライバシーを損ねないように対応している。声が聞こえにくい方には耳もとで大きく声掛けをするようにしている。	理念の中に、利用者への尊厳を大切にするように掲げており、職員が利用者に対して上目線にならないように、管理者からの注意喚起等の取り組みが行われている。また、言葉遣い等に関する振り返りの機会もつられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の思いをよく傾聴し、出来る限り希望を実現できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の表情や言葉、行動などから体調を見て、声かけを行ったり、そっと様子を見るようにしている。一人ひとりの希望や思い、その日のペースなどを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには心がけている。女性の方にはお化粧をして楽しまれている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居様の食べたい物を聞きメニューに反映したり、食後の食器拭いたり出来る事を一緒に行っている。誕生日、行事時にはケーキや行事に応じた和菓子を提供している。	ユニット毎に食事作りが行われており、利用者の好みや嗜好にも配慮した取り組みが行われている。重度の方が生活していることもあり、ミキサーや刻み等にも対応した取り組みが行われている。また、おやつ作り等の取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事と水分の摂取量チェック表に記入し体重も月1度チェックし体調の変化にも気をつけ個々に対応するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き指導、介助をしている。歯科医や歯科衛生士より口腔ケアも必要な方には実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンをつかみ自立に向けて個人のペースに合わせたトイレ誘導、介助をこまめに行っている。	利用者に合わせた排泄記録を残しており、重度の方もトイレで排泄が行えるように職員間の連携した取り組みが行われている。利用者により排泄状態が改善した事例もあり、排泄に関する医療面での連携や日常の体操や運動等の取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には野菜を工夫したり、食物繊維を多く含まれたメニューや水分摂取に努め個々に適宜運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はひとりづつスタッフとおしゃべりしながら、ゆっくりと入って頂いている。	入浴については、週2回の午前の時間に行われている。入浴を拒む方については、職員が交代したり、家族にも協力をお願いする等の対応が行われている。また、職員複数での対応や季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御自分の居室やリビングでのテレビ観賞など又、昼寝も自由にして頂いております。空調も季節に合わせてタイマー等を利用しスタッフが調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は特に注意を払い、又個人ごとの説明書をチェックし投薬変更の時には、副作用等がないか医師や看護師にも相談しながら注意深く見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション(歌・トランプ等)やお手伝いの声掛けを通して一緒に参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に応じてご近所を散歩したりお誕生日の月には利用者様が行きたい場所でランチを楽しんでいます。	利用者が日常的に外出することができるように、近隣の神社に出掛ける等の取り組みが行われている。外出行事は困難になっているが、利用者の希望を確認しながら、誕生月の際には、希望等を反映した利用者個別の外出支援の取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は難しくトラブルのもとになる事も多くハピネスにて立替で利用しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話や手紙のやり取りは自由にして頂いております。本人からはご家族からの希望等も取り入れ対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、清潔に保てるよう空調もまめに温度調整している。季節を感じる花の鉢を置いたり、掲示物を廊下に貼り出している。リビングがお気に入りの利用者様が多く、ほぼ1日リビングで過ごされている。	リビングは南向きであり、窓が大きいことで採光に優れた環境となっている。ゆったりした広さが確保されていることで、プライバシーにも配慮している。また、通路の壁には、飾り付け等の取り組みも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き新聞を読んだり、パズルをしたり気の合った方同士のお話shに利用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具の持ち込みや誕生日の写真の思い出に飾っている。毎日掃除を行い、清潔を保ち持ち込みの家具等で危険にならないようには気を付けている。	利用者により、様々な持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気の方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、各居室に収納できる家具が設置されていることで、持ち込みのない方についても対応が可能となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かるよう大きな字で貼紙等をしたり、ベッドの高さやテーブルの位置等、出来る限り安全面にも気を配り一人一人に合わせて工夫している。		